



シェアリングとサービス化の取組について ～脱物質化による環境負荷の削減～

国立環境研究所
資源循環社会システム研究室 室長

田崎 智宏



有効に使われていない製品がある

例えば、車は、多くの時間が使われていない

英国だと、車の平均寿命を100%とすると



96 %

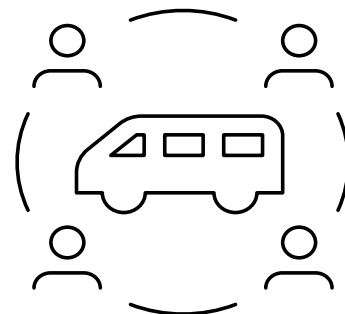
は使われていない

家での駐車時間が80%、その他の場所での駐車時間が16%

シェアリングとサービス化への期待

- 有効に使われていない時間がある製品を上手に使うことができると、製造時の環境負荷・資源負荷を減らせる

シェアリングなどで、製品の稼働率を高めることが大切
(手段) (目的)



- 必要なときに必要なだけ使う仕組み(適量消費)だと、家計の支出を減らせる可能性もある
=環境にも自分にも「良い」

シェアリング等のいろいろ事例

2022年の市場規模は
2兆6,158億円
(前年度比8.1%増)

□ モノのシェアなど

- アイカサ(傘のシェア)、airCloset(衣類のサブスク)、トイサブ！(玩具のサブスク)、Megloo(リユース容器のシェア)、Laxus(バッグのシェア)、atsumari(楽器の貸借)、Sharing Factory(設備・計測器の貸借)など

□ 移動のシェアなど

- notteco、シェアノリ(乗車のシェア)、AINORY(タクシーのシェア)、Times、careco(車のシェア)、AirRide、Shaero(バイクの貸借)、Charichari(自転車のシェア)など

□ 空間のシェアなど

- Airbnb(宿)、軒先パーキング、akippa(駐車場)、spacee(会議室)、SPACEMARKET(各種スペース)など

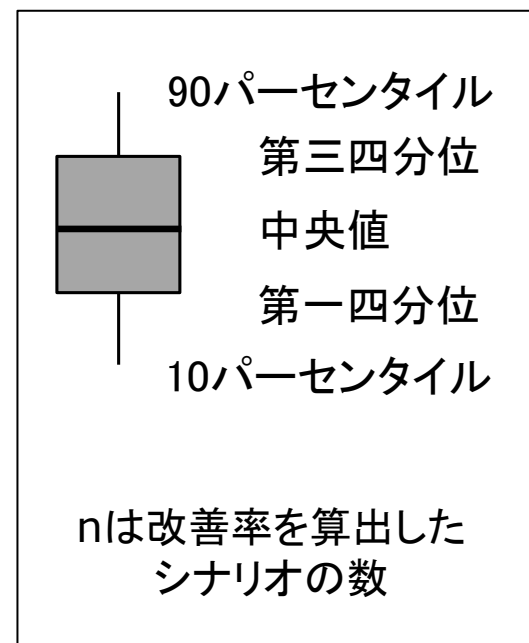
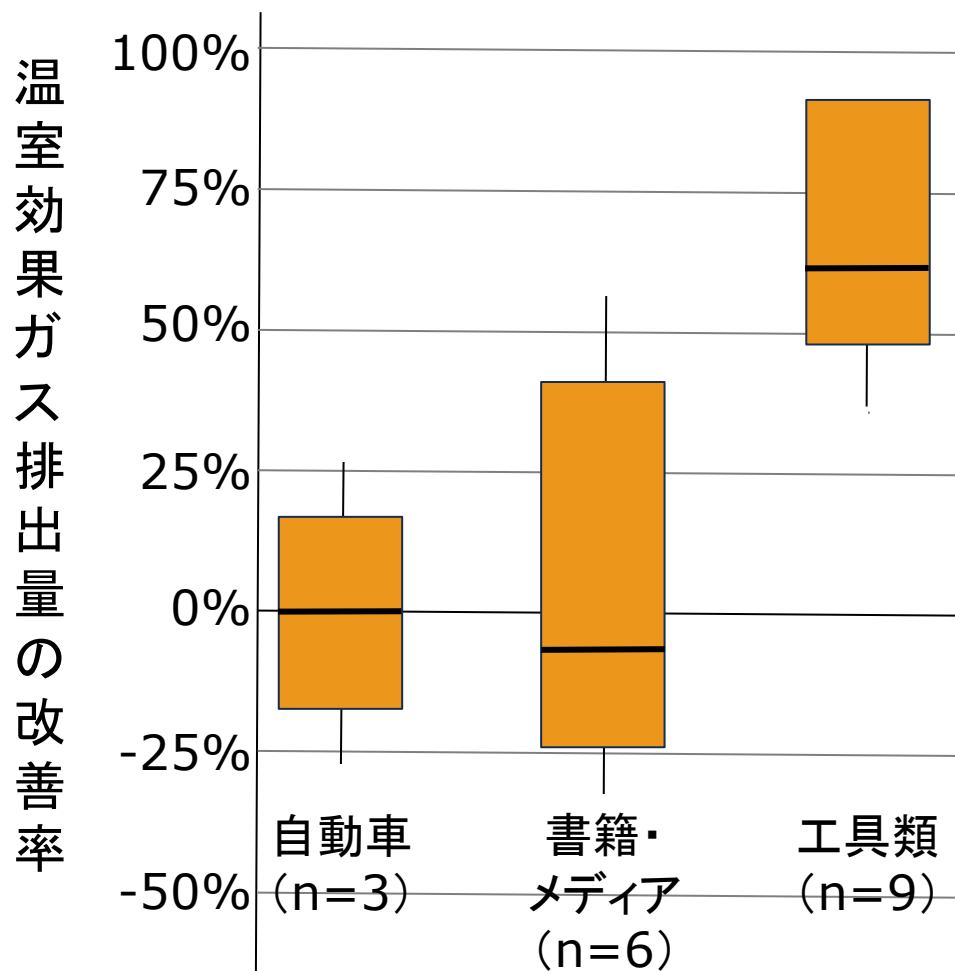
□ スキルのシェアなど

- AsMama(託児・送迎)、TIME TICKET(時間(人材))など

□ (お金のシェア:クラウドファンディング)

- CAMPFIRE、Makuake、READY FORなど

シェアリングによる環境負荷削減の推計幅



改善率がマイナスになる
(負荷が増える)場合も
あることに注意

脱物質サービスの例：電子ブック

(モノではなく機能を使う)

- 電子ブックで読むのと紙の書籍で読むのはどちらが環境によい？



地球温暖化を考えるのであれば、
年間で4.7冊以上読むなら
電子ブックの方が環境負荷が小さい

Amasawa et al. (2018)

脱物質サービスの例： ちらしのデジタル化（Shufoo!など）

環境面以外のメリット



メリット

(利便性)

- ✓ いつでもどこでも見れる
- ✓ 速報性がある(前日晚からチラシを見れるので、買い物計画を立てやすい等)
- ✓ 紙チラシにはない検索機能が使え
- ✓ 注文・配送サービスなど、他のサービスに簡単にアクセスできる
- ✓ チラシのごみ出しの負担が減る
- ✓ 広告主のコストが約3分の1

(環境面)

- ✓ ごみを減らせて環境負荷を低減できる

デメリット

(利便性)

- ✓ 紙のチラシより一覧性が悪い
- ✓ デジタル機器に慣れていないと使えない・使いにくい

(環境面)

- ✓ 電力消費の分だけ環境負荷が増える(ただし、寄与は小さい)

まとめ

- 脱物質(モノを使わない)のシェアリングやサービス化は、環境負荷などを減らせる可能性があり、期待がかかる
 - ただし、リバウンドを起こす(かえって環境負荷を増やす)こともあるので、注意が必要

- 経済的なメリットや機能面のメリットにも着目

- 脱炭素 & 省資源の新しいライフスタイルをつくるために・・・
 - どんなモノが十分に使われていないか？
 - どんなサービスがあれば、モノを持たないで済むか？
 - 国内外では、市レベルで取組を進めようという動きがある。つくば市と市民と企業が協力したらできることは何か？